

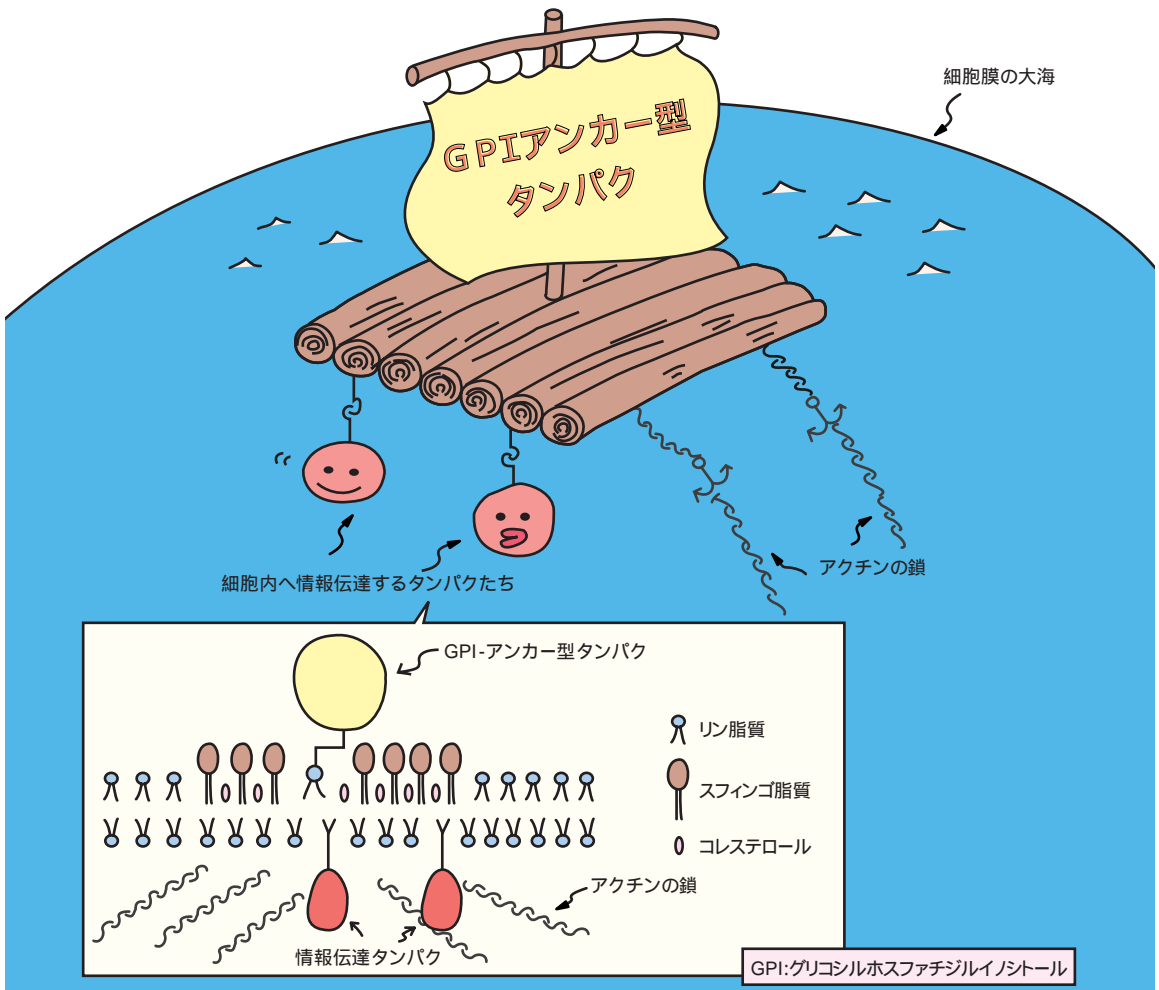
第10回

「場」の生物学 その3 .
- ダイナミックなラフト(いかだ)の物語 -

萩原 清文* 作 多田 富雄** 監修

生命体は「場」(環境)の影響を受けるだけでなく、積極的に新たな「場」を生み出す存在である。細胞膜の大海に浮かぶ小さなラフト(いかだ)もまた然り。

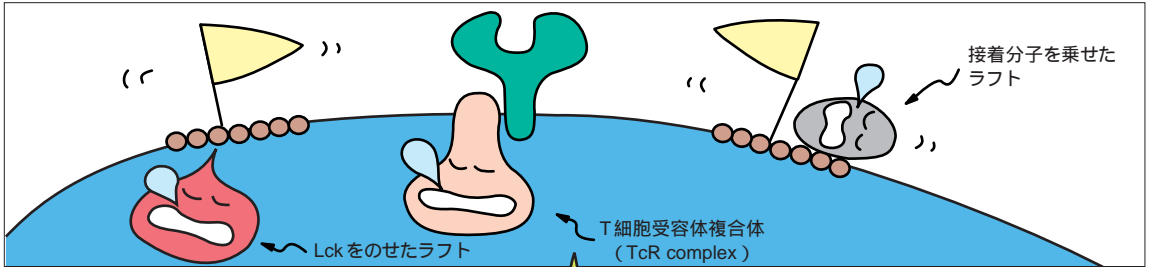
ラフトはGPI-アンカー型タンパク¹⁾という細胞外にアンテナを張った分子を初め、Gタンパクやサーク型チロシンキナーゼといった細胞内へ情報を伝える分子たちが濃縮された小さな「場」である。



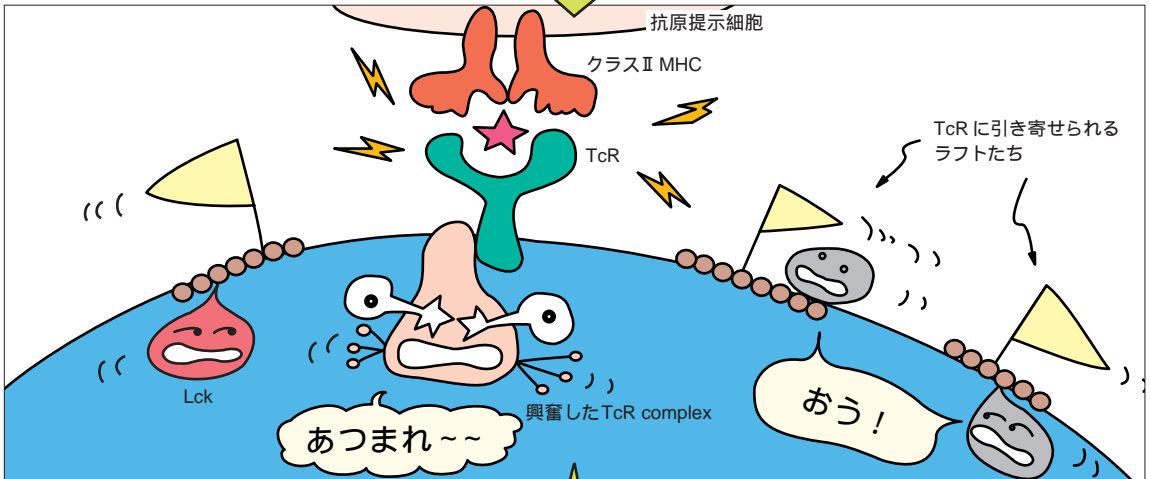
* 東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科

** 東京大学名誉教授

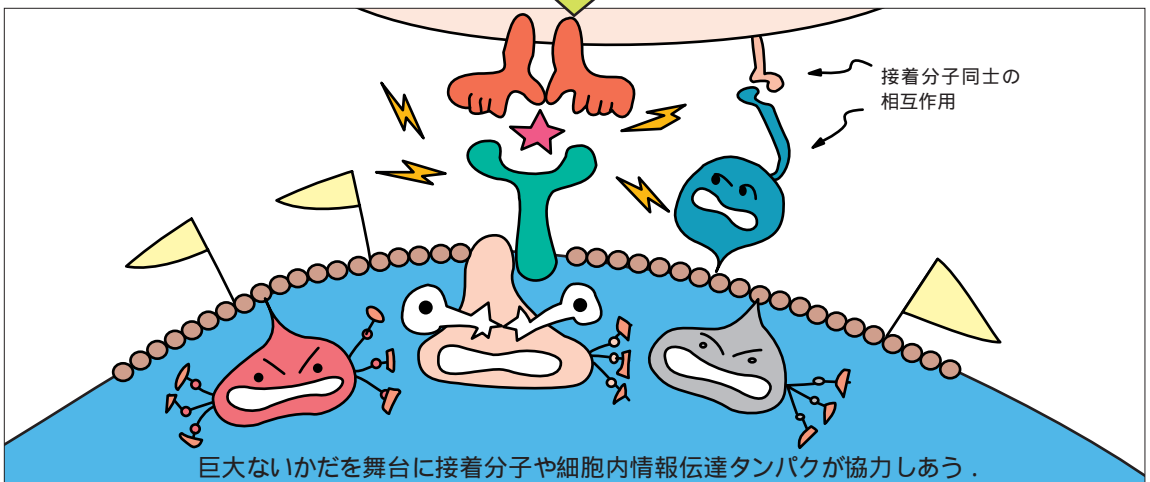
細胞外が静かならラフトも散らばって休止状態



細胞外から刺激が来ると ラフトが集合して...



巨大ないかだが 出来あがる!!



このように細胞膜自体も自ら舞台を作り上げるのである。